

第1部 本部・支部等活動状況

第1章 本部活動状況

創立から昭和39年まで

琉球大学は昭和25年5月22日、沖縄初の大学として誕生しました。創設時の学生数は2年次、1年次併せて562名、教職員44名(教官29名、事務職員15名)でした。昭和28年3月に第1期卒業生26名、昭和29年3月に第2期卒業生122名が巣立っていきました。昭和29年12月4日、第1期、第2期の卒業生148名が中心となって、会員相互の親睦を図り母校の発展に寄与することを目的として同窓会を創設、初代会長に和気政雄氏が就任しました。和気会長は昭和38年6月までおよそ10年間会長を務め、琉球大学同窓会の礎を築きました。

昭和40年から昭和49年まで

昭和38年6月、和気初代会長の後を継いで富永元順氏が第2代会長に就任しました。昭和41年7月には、これまで米国民政府の管轄下にあった琉球大学が琉球政府に移管され琉球政府立の大学となりました。昭和41年までの卒業生は累計で5,205名となり、同窓会設立時の148名に比べ同窓生は約35倍の規模にまで発展しました。その間、同窓会においては、昭和40年2月に「琉球大学同窓会会則」を制定しました。

昭和47年5月15日、沖縄の祖国復帰に伴い琉球大学は文部省所管の国立大学に移行しました。昭和47年までの卒業生は短大部も含めて9,885名となり、同窓会設立時に比べ同窓生は約67倍にまで増大しました。

同年6月には、富永元順会長の後を継いで第3代会長として市村嘉久氏が就任しました。

昭和48年5月には、最初の同窓会名簿「学友」が発行されました。

昭和50年から平成5年まで

昭和59年6月、市村嘉久会長の後を継いで富永元順氏が第4代会長として再び会長に就任しました。同年7月に同窓会臨時総会を開催し、事務局長職を設置、初代事務局長に仲宗根健三氏が就任しました。同総会において「同窓会事業募金」を開始することを決定し、同募金は5年間にわたり募金協力者4,201名、募金総額19,952,500円を集めることができました。同募金により、①同窓会会員名簿の作成、②琉球大学移転統合記念事業への援助、③琉球大学の歌「雲よ湧け千原の空」の制定への援助、④新キャンパスに首里旧キャンパスを偲ぶ「首里の杜の碑」の建設、などを実施しました。

昭和61年7月に同窓会浦添支部を結成したのを皮切りに、同年9月に宮古支部、昭和62年3月に

関東支部、昭和63年1月に大島（奄美）支部、平成元年11月に那覇市役所支部、平成2年6月に関西支部、同年10月に八重山支部が結成され、同窓会組織の強化が図られました。

昭和61年3月には964ページにも及ぶ「琉球大学同窓会会員名簿」が発行されました。

昭和62年6月、富永元順会長の後を継いで第5代会長として安次富長昭氏が就任しました。また、昭和63年6月には安次富長昭会長の後を継いで大城盛三氏が第6代会長に就任しました。

平成元年5月には、琉球大学へ在学生の課外活動援助費として150万円を贈呈しました。課外活動援助費の贈呈はその後も継続して行われるようになりました。

平成2年には、同窓会活動の財源となる会費について、これまで年会費制となっていたものを終身会費制とし、入会金1万円、終身会費1万円としました。これにより同窓会の財政は安定し、同窓会会報の発行や在学生課外活動援助費などの事業が継続して行えるようになりました。

平成6年から平成16年まで

平成6年6月、大城盛三会長の後を継いで第7代会長として比嘉正幸氏が就任しました。琉球大学が平成12年に開学50周年となることから、平成6年9月に大学が記念事業企画委員会を発足させ、大学、後援財団、同窓会が三位一体となって記念事業を推進していくこととなりました。同窓会としても記念事業の一つとして同窓会名簿の改定を行うこととし、平成8年7月に「会員名簿作成委員会」を立ち上げました。会員名簿については個人情報保護の観点から冊子とすることはせず、コンピューター管理とすることとし、5年にわたって作業を行い平成13年6月に同委員会は解散しました。

平成12年5月に開学50周年を迎えた琉球大学の開学50周年記念事業には、同窓会としても募金活動を行うとともに、基金造成ゴルフ大会（平成11年2月、平成12年2月）、チャリティ芸能祭（平成11年12月）、チャリティコンサート（平成12年4月）等を行い協力しました。

平成14年4月に九州・山口支部を結成、平成16年12月に久米島支部を結成し、県内外の支部が出揃いました。

平成15年6月には新築された「50周年記念館」に同窓会事務局が移転、同窓会活動の拠点となる独自の事務室を有することとなりました。

平成17年から平成18年まで

平成16年12月に同窓会創立50周年を迎え、記念事業として平成17年2月10日に記念講演、2月12日に記念式典及び祝賀会、2月19日に記念芸術祭を開催しました。

記念講演は、パレット市民劇場にて農学部畜産学科10期生で獣医学博士の根路銘国昭氏を講師に招き「ウィルスの森から沖縄の進路を観る」とのテーマで講演が行われました。

記念式典及び祝賀会はホテル西武オリオンにて開催され、琉球大学長、沖縄県知事、関係市町村長の祝辞を賜ったあと、協賛広告等により同窓会に長年協力していただいた関係企業及び同窓会活

動へ多大な貢献をされた歴代会長、副会長、事務局長等に対し感謝状贈呈・功労者表彰を行いました。

記念芸術祭は宜野湾市民会館で開催され、「琉球芸能と西洋音楽の夕べ」と銘打って同窓生総勢220名余が第1部西洋音楽、第2部琉球芸能に分かれて出演し、成功裏に終えることができました。

また、創立50周年記念事業として、平成17年3月に記念植樹、同年12月に50周年記念館案内石柱と同窓会創立50周年記念碑建立を行いました。

平成17年5月には、琉球大学から比嘉正幸同窓会長に対し、大学の法人化や法科大学院の設置等に尽力した功績を讃えて名誉博士号が授与されました。

平成15年から在学生を対象に就職支援活動として「職業講話」を実施していましたが、平成17年10月より在学生及び卒業生を対象にした「教員選考試験受験対策講座」を開設しました。同講座はその後継続的に実施されています。

平成18年2月には、同窓会のホームページを開設し同窓会情報を同窓生はじめ一般の方々にタイムリーに発信する態勢ができました。

同年6月には、これまでの同窓会の歩みや50周年記念事業の記録等をまとめた「創立50周年記念誌」が刊行され、同窓生はじめ県内大学、県内外図書館、マスコミ、一般企業等に配布しました。

同年7月には、12年にわたって会長を務めた比嘉正幸会長が退任し、その後を継いで第8代会長に赤嶺健治氏が就任しました。

平成19年から平成20年まで

平成19年10月には、同窓会三役で同窓生がトップとなって活躍している企業を訪問しました。比嘉良雄氏（法政学科・7期生）が社長となっている沖縄都市モノレール株式会社と石嶺伝一郎氏（商学科・20期生）が社長となっている沖縄電力株式会社を訪問し、表敬及び卒業生の就職依頼等を行いました。

同年11月には、米国在住の岸本正之氏（英文学科・5期生）が来局し、同窓会への浄財の寄付と寒緋桜の寄贈の申し出がありました。

平成20年11月には、前年に引き続き同窓会三役で同窓生がトップとなって活躍している企業を訪問しました。高江洲昌和氏（経済学科・30期生）が社長を務めるおきなわ証券株式会社と安里昌利氏（経済学科・20期生）が頭取を務める株式会社沖縄銀行を訪問し、表敬及び卒業生の就職依頼等を行いました。

平成21年から平成22年まで

平成21年から22年にかけて岸本正之氏による寒緋桜の寄贈があり、琉大北口学生寮駐車場、法文学部ビル前庭周辺及び同窓会事務局のある50周年記念館周辺に合わせて約300本の寒緋桜が植栽されました。

平成22年5月に琉球大学が開学60周年を迎えるにあたり、同窓会も記念事業に協力する取り組み

を行い、平成21年7月から同窓生に対する募金活動を開始するとともに、平成22年4月には基金造成ゴルフコンペを開催しました。募金については同窓会部会として集めた12,000,000円を、ゴルフコンペにおいては収益金524,000円を大学へ贈呈しました。

同年7月には、赤嶺健治会長の後を継いで第9代会長として幸喜徳子氏が就任しました。

同年11月には、開学60周年記念事業の一つで同窓会が主体となって推進した「千原花の杜造園事業」について、50周年記念館周辺及び亜熱帯演習林構内種苗園プラントに合わせて50本の「アマミセイシカ」を植栽しました。

平成23年から平成24年まで

平成23年7月には、定期総会に併せて同窓会史上初の試みであるパネルディスカッションを一般県民にも無償公開し開催しました。開催の趣旨としては、(1)広く県内外のビジネス界や教育界で活躍しているリーダーの方々からそれぞれの分野における課題の報告や提言を通して、沖縄の若者が沖縄の現状を直視し、夢を抱き前向きに生きるヒントを発見する場とする、(2)同窓会員相互の貴重な経験とアイデアを共有することで、本学同窓会の活性化を図り、共に向上しようという確認の場とする、ということでした。

「沖縄の将来を担う若者たちに望むこと」をテーマに、大城肇琉球大学理事・副学長の基調報告に続き、安里昌利沖縄銀行会長、大城浩沖縄県教育委員会教育長、富田詢一琉球新報社長、比嘉良雄沖縄都市モノレール前社長の4人をパネリストとして招き幸喜徳子同窓会長をコーディネーターとしてディスカッションが行われました。

基調報告の大城肇氏からは、「若者の“未来叶い”のために」と題し、沖縄経済の構造問題や本学の就職状況の分析説明があり、また、各パネリストからはそれぞれの立場からのキャリアアクセスの方法などの提言がありました。会場には若者ら350人が参加し、厳しい就職活動状況の中、熱心に基調報告やディスカッションに聴き入っていました。

平成24年7月には、前年のパネルディスカッションに続き、広く県民を対象とした「シンポジウム2012」を開催しました。開催の趣旨としては、(1)県内の金融、マスコミ、産業界等で活躍するリーダーの方々に、それぞれの分野における職業と人生を通して諸課題の報告や提言をしていただき、参加者が沖縄の地域社会の現状を把握し、夢を抱き前向きに生きるヒントを得る機会とする、(2)参加者が相互にパネリスト等の貴重な体験とアイデアを共有することで、本学同窓会の交流促進に資する場とする、ということでした。

「リーダーが語る職業と人生」をテーマに、岩政輝男琉球大学長の基調報告に続き、大城勇夫琉球銀行相談役、佐久眞章沖縄プラント工業社長、高安正勝ぬちまーす社長、長元朝浩沖縄タイムス論説委員長の4人をパネリストとして招き、幸喜徳子同窓会長をコーディネーターとしてシンポジウムが行われました。

基調報告の岩政輝男氏からは、仕事・職業の選択、仕事のやり方・発展させる工夫、リーダーの人生観・考え方と組織などについて講演があり、また、各パネリストからはそれぞれの分野の経験

や見識等に基づいた就職の考え方や対策、キャリア形成などについて示唆に富んだ提言がありました。若い世代の参加者が少なかったのは残念であり、参加者からは「若い人たちにこそ聞いてほしい」、「自分が若いころに聞きたかった」などの声が聞かれました。

平成25年から平成26年まで

平成25年7月には、前年のシンポジウムに引き続き、広く県民を対象とした「シンポジウム2013」を開催しました。開催の趣旨としては、県内の景気動向は近年回復の動きを見せており、特に観光関連産業を中心に今後の伸びが期待される、その中でも県内で活躍している方々を招き、それぞれの分野に経験や事例等を通して沖縄経済の可能性や今後の夢を語っていただき、若者達をはじめ多くの県民が将来に明るい希望を持ち、前向きに生きる示唆を得る、ということでした。

「沖縄経済の可能性と夢」をテーマに、能登靖沖縄総合事務局経済産業部長の基調報告に続き、上地英由沖縄海邦銀行頭取、下地清吉沖縄長生薬草本社社長、渡口彦則沖縄県高圧ガス保安協会会長、山内光子(株)マドンナ社長の4人をパネリストとして招き幸喜徳子同窓会長をコーディネーターとしてシンポジウムが行われました。

基調報告の能登靖氏からは、地理的・文化的特性等沖縄の特殊事情についての説明やこれまでの沖縄振興策の成果と課題等についての説明がありました。また、各パネリストからはそれぞれの立場から沖縄の産業経済の方向性や将来性などについて貴重な提言をいただきました。

シンポジウムに引き続き、山内光子氏がデザインした沖縄の伝統的な染織物を使用したかりゆしウェアやサングスを原料にした新繊維で作ったウエディングドレスなど、個性的で華やかな多数のコレクションがファッションショーで紹介され、老若男女約200名の参加者を魅了しました。

平成26年7月には、定期総会に併せて講演会を開催しました。講師には琉球大学医学部附属病院長の國吉幸男教授をお招きし、「沖縄県の医療の進歩、特に心臓血管外科領域」というテーマで講演をしていただきました。沖縄において組織的に心臓血管病に対する外科治療が始まったのは琉球大学に保健学部・医学部が設置された後であり、現在では琉球大学においては先進的、高度医療を積極的に行っていること、また、大動脈瘤に対する治療や補助人工心臓治療などの高度医療の状況などの説明がありました。

同年8月には、長い間休眠状態だった八重山支部が再結成され、再び全7支部が活動することになりました。

同年9月には、米国在住の岸本正之氏が創立60周年記念事業に役立ててほしいと同窓会に50万円の寄付がありました。

平成27年

平成26年12月4日に同窓会創立60周年を迎え、平成27年に入っているいろいろな記念事業を開催しました。

平成27年2月11日には、「過去から未来へのかけはし」をテーマに浦添市てだこホールにて「芸術祭」を開催しました。200名余の同窓生により、西洋音楽、琉球芸能及び50周年記念時にはなかった邦楽を加えた3部門が披露され、800名余の観衆を魅了しました。

同年4月21日には、チャリティゴルフコンペを琉球ゴルフ倶楽部にて開催しました。当日はゴルフ場を貸切にして総勢83組、321名のプレーヤーが参加し、午前7時にスタートしたコンペは午後6時頃にプレーを終了しました。プレー後は抽選により全プレーヤーに各協賛企業提供の賞品が当たったほか、優勝者には「JAL東京往復券」が、その他の順位賞にも素晴らしい賞品が当たりました。

同年6月には、米国在住の岸本正之氏から再び創立60周年記念事業に役立ててほしいと同窓会に5,000ドル（約62万円）の寄付がありました。

同年7月には、創立60周年記念事業の一環として、岸本正之氏のこれまでの功績を讃えるため、琉球大学構内「首里の杜」に顕彰碑を建立し、大城肇琉球大学長はじめ来賓の方々を招いて除幕式を挙行了しました。

同年7月11日には、創立60周年記念講演・式典・祝賀会をホテルロイヤルオリオンにて開催しました。記念講演は岸本正之氏を講師に招き「地球社会の明日を読む」とのテーマで行いました。記念講演に続き記念式典が行われ、琉球大学長、沖縄県知事、関係市町村長の祝辞を賜ったあと、協賛広告等により同窓会に長年協力していただいた関係企業及び同窓会活動へ多大な貢献をされた方々に対し感謝状贈呈を行いました。また、琉球大学から同窓会への感謝状授与、岸本正之氏への名誉博士号授与が行われました。

引き続き祝賀会が開催し、同窓生による演技等の披露、チャリティゴルフコンペの表彰式等が行われ、200名余の同窓生等が創立60周年を祝いました。

平成17年より開設している「教員候補者選考試験対策講座」について、平成27年は4月から8月まで27回開催され、在学生及び卒業生131名（延べ1,027名）が受講し、うち44名が最終試験に合格しました。合格率は33.6%となっており、県全体の合格率10.2%に比べ高い実績を上げています。